

新たなフェーズを迎えて

産業能率大学学長 おにき かずこ 鬼木 和子



4月1日、1,007名の新入生を迎えて入学式が挙行されました。卒業生も交えての本学吹奏楽部の演奏、クラブGroup Sounds SANNOの合唱による校歌紹介も恒例となり、新入生の入学を祝う思いを叶えることができました。

現在は、前学期も後半に入り、1年生は、ゼミ活動はじめ各授業を通じて、学びの内容のみならず、本学での学びのスタイルにも馴染んで「戸惑い」から「気づき」へと移り、授業への取り組みもより深まっています。2年生は、後学期からの「コース」、「専門ゼミ」（科目名は学部により別）の決定に向け日程を進め、いよいよ各々の専門領域での学びに期待を膨らませています。2年生対象のPBL (Project Based Learning) 科目においても、学生達が地域、企業、団体様と協働してプロジェクトの達成のため日々健闘をしている様子は、他の学生にとっても良い刺激になっています。3年生は、学業のみならず、課外活動において中心的役割を果たしながら、企業へのインターンシップ参加への準備などに余念がありません。そのマルチタスクをこなす姿には頭が下がると同時に、このような活動がスムーズに進んでいるのも、学生間の横の関係、教職員、経験者(卒業生を含む先輩)や後輩との縦の関係が非常によく働き、適切な助言や励ましや協力を得る機会に恵まれていることが助けになっているようです。今年の11月8日(土)・9日(日)には、両キャンパスにて、その学生達の諸活動の集大成である学園祭が開催されます。主催者に代わり、保護者の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

卒年次を迎えた4年生は、大学生活の総仕上げの時期を迎え、自身の学業、学生生活の充実のみならず、前述のように後輩支援にも力が入ります。後輩たちの自主性を重んじながら、失敗の経験も含め説得力あるアドバイスを送る4年生の姿に本学の目指す学生像が重なります。就職活動につきましても昨年同様の高い内定率を維持しております。引き続き各々のペースで納得いく就職活動ができるよう、両キャンパスのキャリアセンターはじめ、教職協働にて支援してまいります。

ご報告が恒例になりますが、『大学ランキング2026』朝日新聞出版(2025年4月21日発行)によりますと、高校からの評価ランキング(2024年大学通信調査)において、「小規模だが評価できる大学」(全国8位)、「面倒見が良い大学」(全国6位)、「入学後、生徒を伸ばしてくれる大学」(全国14位)、「就職に力を入れている大学」(全国13位)の高評価をいただきました。今後も、マネジメント領域の「実学教育」を行う先駆者としての矜持をもって、卒業生、在学生と共に教職協働にて歩んでまいります。

今年、学校法人産業能率大学は、1925年に本学創立者上野陽一先生が「日本産業能率研究所」を創設した1925年に始まり、100周年を迎えます。学生教育部門においては、1950年に産業能率短期大学(現・自由が丘産能短期大学)、1979年に産業能率大学が開学され、現在に至っております。この節目の年を迎え、私共もより一層身を引き締め、本学建学の精神に則り、高い教育力、協働力をもって邁進いたします。とりわけ、創立者上野先生の説く「能率とは(ムリムダ)ムラを減らして全てのヒトとモノとカネとが生かされている状態である」(「能率十訓」より引用)という「能率」の考え、即ち「目的と手段が釣り合って、それぞれのモチマエが十二分に発揮できている状態」を目指して更なる本学教育の特色強化に臨みます。併せて、在学生には、自校教育の一環として「効率」とは似て非なる「能率」の考えについて、より一層学びを深める機会を作ります。

最後になりましたが、保護者の皆様には、平素より後援会を通じて本学の教育活動、並びに学生の活動、諸行事に多大なるご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。お陰様にて、学生達の活動が成果を上げ、学内外におきまして、これまで以上に高い評価をいただいております。この場を借りて、重ねて心より感謝申し上げますと共に、今年度も学生の安心安全を守りながら、新たなフェーズでの取り組みを加速してまいりたく、引き続きご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。